キッザニア白書

2023

KidZania
Japan

刊行にあたって

キッザニアが日本で開業して18年目に入りました。昨今は、「こどもの頃にキッザニアへ行っていました」という声を、笑顔と共に頂戴することが多々あります。中には「キッザニアで体験した職業に憧れて、その夢をかなえました!」というエピソードをお伺いすることもあります。こういった声を受け、2023年の白書では「キッザニア卒業生」を対象として、小・中学生時代の職業に関わる体験と成人後のキャリア観の関係性について、定性および定量の両枠組みで調査研究を実施いたしました。

研究にあたっては、構想の段階から筑波大学の立石慎治先生にご協力いただき、キャリア教育を視点とした共同研究として調査設計を行いました。研究1はインタビュー、研究2ではWebアンケートを用いて、小・中学生時代の職業への興味や現在のキャリア自律などについて探索的な調査を行いました。さらに今回は、キッザニアでの体験効果を検証することに留まらず、小・中学生時代のキャリア教育への認知などについても調査範囲を広げるなど、社会に資する研究へ向けた第一歩を踏みだすことを試みています。

人生100年時代を迎えつつある今、あらためてキャリアの意味が問われています。5冊目となる本白書では、大人になった「キッザニア卒業生」たちの声を通して、体験の持つ力をご紹介いたします。より複雑で冒険に満ちたキャリアを築くと思われる次世代へ向けて、力となる体験を提供するために、キッザニアも進化し続けます。

KCJ GROUP 株式会社
代表取締役社長　圓谷 道成

CONTENTS

刊行にあたって …… 1
キッザニアについて …… 3
パビリオン一覧 …… 5

研究テーマ 「小・中学生時代の キャリアにかかわる体験 がもたらすものとは?」 …… 9
監修者 紹介 …… 10
研究1 小・中学生時代の職業への興味と現在のキャリア …… 11
―キッザニア卒業生の語りより―
研究2 時間を経ても見いだせるキッザニア体験の職業自律性への影響 …… 13
―キッザニア卒業生へのアンケート調査結果より―
考察 …… 19
コラム① キッザニア卒業生が描く未来 …… 20

特別対談「キャリアの原点、現在そして未来へ」 …… 21
森川 光世［国境なき医師団 アドミニストレーター］× 宮本 美佐［KCJ GROUP 株式会社 代表取締役副社長］

KidZania's Experiences …… 25
コラム② 卒業したキッザニアンからのメッセージ …… 27
コラム③ Back to KidZania …… 29
おわりに …… 30

キッザニアは、3〜15歳のこども達が職業・社会体験できる屋内型施設です。

現在、18ヵ国27ヵ所※で展開しており、各国の多様な文化を礎として、世界中のこども達と共に成長しています。

日本には、キッザニア東京・キッザニア甲子園・キッザニア福岡があり、さまざまな仕事やサービスを体験できます。実社会の約2/3サイズの街並みに、企業や団体がスポンサーとなったパビリオンが揃っており、ユニフォームや機材および食材などをご提供いただくことで、本格的な体験を演出しています。また、キッザニアでは専用通貨「キッゾ」が流通しており、仕事をすることで給料としてキッゾがもらえるほか、銀行に預金をしたり、キッゾを使って買い物をしたり、サービスを受けたりすることができます。

パビリオンでは、スーパーバイザーと呼ばれるスタッフがこども達を迎えます。スーパーバイザーは仕事の手順だけではなく、その仕事の意義や本質を伝え、仕事をいっしょにやり遂げる、“職場のちょっと先輩”という立場からキッザニア体験をサポートしています。

キッザニアでは、これらの職業・社会体験を通じて、こども達がまず“夢中で楽しむ”こと、そこから“それぞれの学びや気づきを得る”ことを大切にしています。

学び（エデュケーション）と楽しさ（エンターテインメント）の両方を兼ね備えた、『エデュテインメント』な場所であることを、常に目指しています。

※2023年11月現在

キッザニアがお届けする、多様な体験プログラム

キッザニア オンラインカレッジ

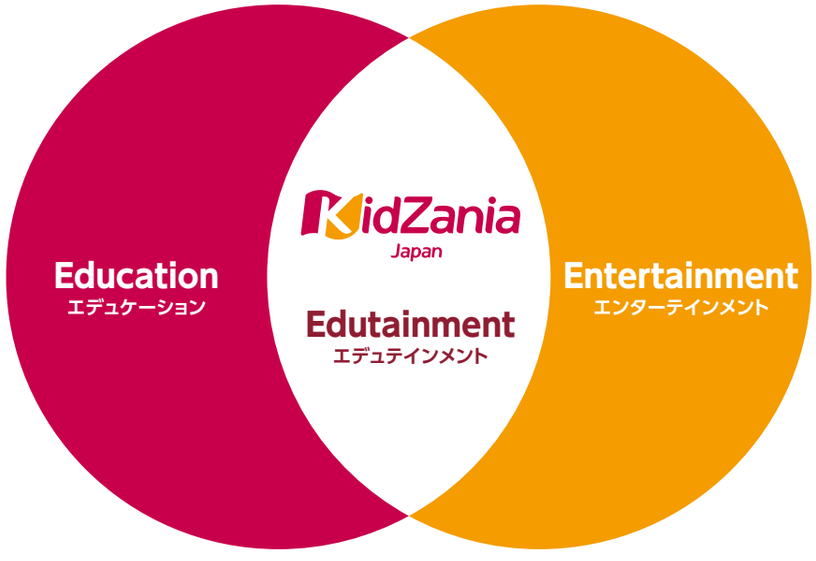
「キッザニア オンラインカレッジ」は、キッザニアのノウハウを活かし、オンラインでもさまざまな仕事や社会について、こどもが楽しく学ぶことができる知育アプリです。

Out of KidZania

こども達に「もっとリアルな体験をしてもらいたい」という想いから生まれたプログラムです。
キッザニアを飛び出して、パートナー企業の仕事や地域のさまざまな仕事を実際に体験することができます。

「キッザニア」のコンセプト

キッザニアは、リアルな職業・社会体験を通して、こども達の生きる力を育みます。



こども達の生きる力を育む「キッザニア10Values」

10Valuesとは、キッザニアが未来を拓くこども達に“持ってもらいたい”と考える「生きる力」の構成要素です。キッザニアが提供する、さまざまなアクティビティでの職業・社会体験を通して、自分で考え、行動する力を身につけ、その体験の積み重ねが「生きる力」を育むと考え、日々取り組んでいます。

[10Values]

- Agency — 主体性
- Grit — やり抜く力
- Creativity — 創造力
- Curiosity — 好奇心
- Responsibility — 責任感
- Self-Efficacy — 自己効力感
- Self-Affirmation — 自己肯定感
- Communication — コミュニケーション力
- Collaboration — 協働力
- Critical Thinking — 論理的思考力

パビリオン一覧

キッザニア東京

東京都江東区豊洲2-4-9
アーバンドック ららぽーと豊洲1 ノースポート 3F

キッザニア甲子園

兵庫県西宮市甲子園八番町1-100
ららぽーと甲子園

キッザニア福岡

福岡県福岡市博多区那珂6-23-1
ららぽーと福岡

パビリオン一覧

(五十音順)
※2023年11月1日現在の情報です。

甲 医薬研究所

福 医薬研究所

福 宇宙訓練センター

東・甲・福 運転免許試験場

東 エネルギー会社

東 絵の具屋

東 鉛筆工場

福 オープンシアター

東 お菓子工場

東・甲・福 おしごと相談センター

東 おもちゃ工場

東・福 カーデザインスタジオ

東・甲・福 カーライフサポートセンター

東・甲・福 科学研究所

東・甲 ガソリンスタンド

東 家電専門店

甲 ガラス工場

東 観光バス

福 観光バス

東・甲・福 キッザニア SDGs センター

甲 キッチンリフォームセンター

東・甲 銀行

福 銀行

東 キッザニア東京　甲 キッザニア甲子園　福 キッザニア福岡

福 空間デザインスタジオ

福 空港警備センター

東・福 くつ工場

東・甲・福 クライミングビルディング

東 ケアサポートセンター

甲 ケアサポートセンター

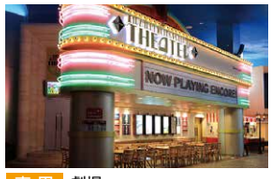
東 警察署

甲 警察署

福 警察署

東・甲 警備センター

東・甲 ゲーム会社



東・甲 劇場

東 コールセンター

東 裁判所

甲 裁判所

東 サッカースタジアム

東・甲・福 サラダショップ

東 CMスタジオ

東・甲・福 歯科医院

甲 自動車工場

東 出版社

福 シミュレーションテクノロジーセンター

東・甲 証券会社

東・甲 商店街

東・甲・福 消防署

東・甲・福 食品開発センター

福 ショッピングモール

甲 水道施設

パビリオン一覧

東 キッザニア東京　甲 キッザニア甲子園　福 キッザニア福岡

甲 すし屋

東 スポーツクラブ

福 制作スタジオ

東・甲・福 石けん工場

福 専門学校

東 総合商社

甲 送配電会社

東・甲 ソーセージ工房

福 ソーセージ工場

東・甲 ソフトクリームショップ

東・甲・福 宅配センター

福 だし屋

東 地下鉄

甲 チョコレート工房

東・甲・福 通信会社

甲 DIYスタジオ

東 デパート

甲 デパート

甲 テレビ局

福 テレビ局

東・甲 電子マネーセンター

甲 電車

甲 ネイルサロン

福 配電テクニカルセンター

甲 パスタスタンド

甲 パソコン工場

甲 パッケージング・ラボ

東 パティスリーショップ

東 ハンバーガーショップ

東・甲・福 飛行機

東・甲・福 ピザショップ

福 ビジネスイノベーションセンター

甲・福 筆記具屋

東 ビューティスタジオ

東 病院

甲 病院

福 病院

東 プリント工房

甲 ペインティングウォール

東・甲 ベーカリー

甲 ボイラ施設

甲 ホースパーク

甲 ポストレコーディングスタジオ

東 ぽん酢工房

東・甲 マジックスタジオ

福 マスク工房

東・甲 街時計

福 街時計

東・甲・福 ミルクハウス

東・福 メガネショップ

福 有機EL研究開発センター

東 ラジオ局

甲 ラジオ局

甲・福 リユースショップ

甲 冷蔵サポートセンター

東・甲 レンタカー

研究テーマ

「小・中学生時代のキャリアにかかわる体験がもたらすものとは?」

研究1 小・中学生時代の職業への興味と現在のキャリア ―キッザニア卒業生の語りより―

調査対象／キッザニア東京・甲子園に来場経験のある20代の有職者
サンプリング／スノーボールサンプリング
調査時期／2021年5月～2022年2月
調査方法／オンライン会議システムを通じた半構造化インタビュー

研究2 時間を経ても見いだせるキッザニア体験の職業自律性への影響 ―キッザニア卒業生へのアンケート調査結果より―

調査対象／20代有職者1000名（キッザニア来場経験者500名・未来場者500名）
調査時期／2022年10月
調査方法／Webアンケート調査

調査・分析
KCJ GROUP（株）アカデミーラボ
筑波大学 教学マネジメント室　立石 慎治 助教

監修者 紹介

大人になってからも息づく キッザニアでの経験、そして未来へ

立石 慎治（タテイシ シンジ）
筑波大学 教学マネジメント室 助教

広島大学大学院教育学研究科修了。博士（教育学）。
東北大学高等教育研究開発センター助教、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター研究員、同高等教育研究部主任研究官を経て、2020年4月より現職。専門は、キャリア教育論、高等教育論。

「この子が大きくなっても、たくましく生きていけるように…」という思いを持つ保護者の方、あるいは、教育関係者の方は多いことと思います。こども達は、いつかは学校を卒業しますし、いつかは保護者のみなさんのところから巣立っていきます。

あまり馴染みがない方もいるかもしれませんが、現代の学校教育では「キャリア教育」を行うことになっています。「キャリア教育」といっても、進学先や就職先を選んだり、そのための準備をしたりというだけではありません。「キャリア」を「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と広く捉え、その人らしく生きていけるように、力を身に付けてもらえるようにするのが「キャリア教育」です。

このように考えると、キッザニアも学校でのキャリア教育も、思いが重なるところがあることがわかります。つまり、大きくなったときのために、いま何かしてあげられることはないか、ということです。

キッザニア白書2023で取り組んだ2つの研究が大事にしたこともまた、このことです。2つの研究では、いずれも大人を対象に、かつてキッザニアに通ったときの経験がいまの自分にどう息づいているかを尋ねています。言ってみれば、「大きくなったあとにも、あのときしてあげたことには意味があるのか」に迫ったのが、この白書の2つの研究です。

研究1では、インタビューを通じて、キッザニアがどういう体験であったか、小・中学生のころの職業への興味はどうであったか、現在の仕事はどうかなどを尋ねつつ、「こども時代の体験は大人になってから役に立っているか」を探りました。

研究2でも、アンケート調査を通じて、キッザニア経験や小・中学生のころの社会や働くことへの興味、現在の職業キャリアに関する自律性などについて尋ね、「こども時代の体験は大人になってから役に立っているか」を探っています。

結果はぜひページをめくっていただきたいところですが、少し先取りをすれば、今回研究に協力してくれたキッザニアンたちにとって、キッザニアでの経験が有意義であり、そうした経験が大人になった今なお息づいていることがインタビューの語りやアンケートの回答からは見て取ることができました。

過去の積み重ねの果てに現在がありますが、未来も気になるところです。インタビューでは、10年後の自分と社会についてもお尋ねしています。社会の中で自分の役割を果たし、自らの目標に向かって邁進しているキッザニア卒業生たちは、未来を希望とともに見据えています。いまキッザニアに通っているみなさんの10年後、20年後もそうした希望に溢れたものになることを願ってやみません。

研究1

小・中学生時代の職業への興味と現在のキャリア
—キッザニア卒業生の語りより—

1. 卒業したキッザニアンの過去・現在・未来

キッザニアが日本で開業して18年目に入りました。数多くのキッザニアン[1]がキッザニアを卒業し、今や社会人となっています。そんなキッザニア卒業生にとって、過去のキッザニアやキャリアに関連する体験はどのように記憶されているのでしょうか。また、現在とどのように結びついているのでしょうか。そのような疑問から、キッザニア福岡が開業間近となった2021年、社会へ旅立ったキッザニアンたちに、これまでの経験と今のキャリアを問う調査プロジェクトが立ち上がりました。プロジェクトの鍵となる問いは「こども時代の体験は大人になってから役に立っている?」です。

この問いについて、これまでに行われた研究によると、「体験的キャリア教育」は就業選択の際に役立っている[2]ようです。このことから、こども時代のキャリアに関わる体験はその将来にポジティブな影響があるということは言えそうです。では、実際には、どのような影響があるのでしょうか。また個人は過去の体験と現在のキャリアとの関係をどのように捉えているのでしょうか。

そこで、キッザニア卒業生に小・中学生時代のキャリア教育およびキッザニアでの職業・社会体験を振り返ってもらい、次に現在の職業について語ってもらうことにしました。

大学などさまざまなところを通じて呼びかけた結果、東北地方から中国・四国地方まで、広い範囲に住んでいる卒業生たち10名がオンラインインタビューで調査に協力してくれました。今回協力してくれたみなさんの社会人経験は1年目から4年目の間であり、それぞれのキャリアはこれから更に広がっていくところといえます。これらキッザニア卒業生のリストは表1に示します。次のセクションからは語りの一部をご紹介します。

2. キッザニアの記憶

まず、卒業生に来場時のキッザニアの印象を振り返ってもらいました。その印象を分類してみると、3つの軸がみえてきました。最も多かったのは「没入感」です。例えば、キッザニアに入った時に「異世界」や「パラレルワールド」(D氏)といった、日常と全く異なる世界へ入り込んだ気持ちを感じた、という語りがありました。次に、「仕事の体験ができるイメージ」(F氏)や「仕事を(中略)体験できたのはすごく面白かった」(I氏)と、「体験」そのものに関する語りが目立ちました。また、キッザニアでのイベントに参加したA氏はそこで賞を獲得したエピソードから「夢を挑戦できる場所」と表現してくれました。このような「夢」への挑戦という軸はほかのキッザニア卒業生の語りにも現れました。

このように、キッザニアについては「没入感」、「体験」そして「夢」という軸で語られました。もちろん、これらはすべて当時を振り返ってもらった語りの中に出てきたことですから、当時をそのまま再現したというわけではないかもしれません。しかしながら、体験から10年以上経っても、当時の没入感や体験内容、そして自分の挑戦を豊かに語ることができた点は非常に興味深いといえます。

また、もっと具体的なキーワードで語られるケースもありました。例えばG氏のように、「父が、僕がキッザニアに行った時の写真を(中略)今も部屋に飾っていて」というように、自己の体験ばかりでなく、現在に至る保護者との結びつきの中でキッザニアの記憶を語る卒業生もいました。

調査協力者	社会人経験(年目)	性　別	居住地域	初来場年齢
A	2	女性	中国・四国	13
B	1	女性	関東	8
C	2	女性	関東	10
D	2	男性	東北	10
E	1	男性	中国・四国	7
F	3	女性	近畿	11
G	4	男性	中国・四国	13
H	4	女性	関東	11
I	2	男性	関東	9
J	1	女性	近畿	12

表1　インタビュー調査 協力者リスト[3]

[1] キッザニアンとは、キッザニアで体験する3〜15歳のこども達のことをいいます。
[2] 国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2011)『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』
[3] 本件はキャリアに関する調査であり、性別はキャリア形成に大きな影響を与えるとされていることから、リストへ掲載としました。

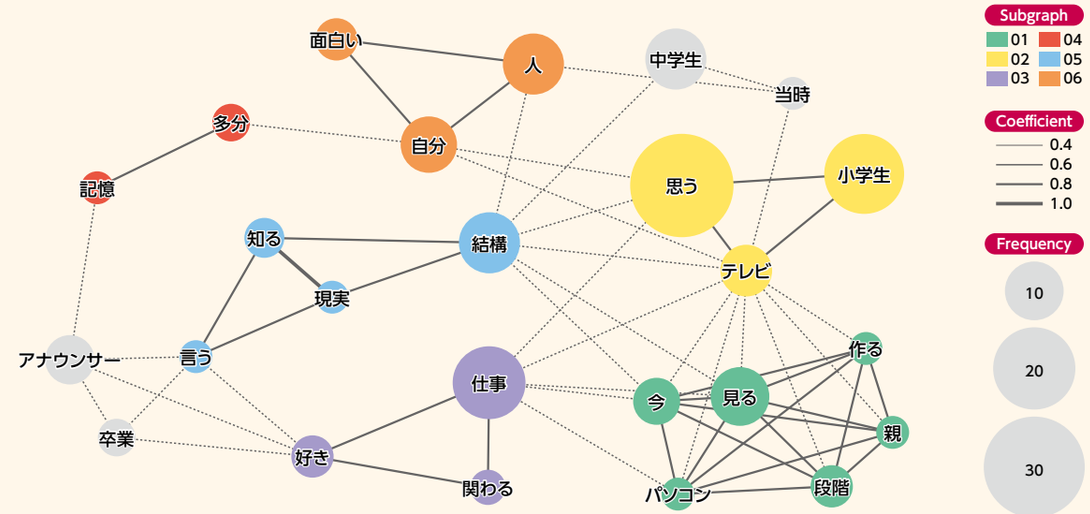


図1　職業への興味

3. 小・中学生時代の職業への興味

次に、キッザニア卒業生に、小・中学生時代の職業への興味について語ってもらいました。図1は分析ソフトを用いて、語った内容にどのような単語が使われているかを見た結果です[4]。この結果によると、「好き」という言葉は「仕事」と結びついています。また、「面白い」という言葉が「自分」と結びついていることなどから、自分が好きである、あるいは面白いと思っているといった事柄が、将来の仕事のイメージへとつながっていくのではないかと考えられます。その一方で、「現実」という言葉と「知る」という言葉の関連からは、ただ夢や憧れだけではなく、現実の中で自分の可能性を模索するということも経験していく年代といえるのかもしれません。

今回インタビューに協力してくれたキッザニア卒業生10名中8名に、小・中学生時代になりたい職業がありました。しかしながら、その職業にどのようにアプローチしたらよいか分からなかったという語りもありました。このような中で「夢見てるだけだったら実現しないから、とりあえずなんでもやってみなさい」という保護者の言葉や、興味を持った企業へ手紙を出すよう助言をくれた先生など、憧れを現実のものにするための一歩へ向けて、背中を押してくれる大人のサポートも語られました。

4. 現在の仕事

キッザニア卒業生の現在の職業はシステムエンジニアや営業職、環境型複合施設で働く人、またメディアに携わる人など多岐にわたります。そんな卒業生が仕事をする上で大切にしていることは何でしょうか。最も大切にされていたのは「人の役に立つ」ことでした。それは、「ダイアローグ(対話)」(A氏)を通じて連携したいという語りや、「人のために何ができるか」(F氏)、「誰に対してもまず丁寧に接する」(D氏)という語りからもよく伝わってきます。同時に、「達成感」も重視される傾向にあり、「『自分は自分』っていうものを持つ」(I氏)姿勢を維持しつつ、「自分の達成感みたいなところを感じられる」(C氏)ことを希求している姿がありました。

5. インタビューのまとめ

調査を通じて見えてきたのは、小・中学生時代に多様な体験や周囲の人々のサポートを糧に職業への興味を持ち、現在は社会の中で自分の役割を果たすことや目標を達成することに向き合っているキッザニア卒業生の姿でした。

この10名以外にも社会には数多くのキッザニア卒業生がいます。これら卒業生はどのように現在のキャリアを考えているのでしょうか。また、過去の体験と現在のキャリアの結びつきはどのようになっているのでしょうか。研究2ではWeb調査を行いましたので、そちらをご覧いただきます。

(文章:KCJ GROUP (株) アカデミーラボ)

[4] 樋口耕一(2014)『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承を目指して』ナカニシヤ出版

研究2

時間を経ても見いだせるキッザニア体験の職業自律性への影響
―キッザニア卒業生へのアンケート調査結果より―

1.キッザニアンが振り返る当時と今

かつてキッザニアに行った経験があるキッザニアンたちにアンケートに協力してもらい、当時のこと、そして、今のことを回答してもらいました。今回のアンケート調査には、さまざまなキッザニアンが合計で500名、協力してくれました。

協力してくれたキッザニアンたちは、小さい頃から何度も通ったキッザニアンもいれば、来てくれたのは一度のキッザニアンもいます。多いのは「7～9歳」の頃に初めてキッザニアに行った人で、今回のアンケートに回答した500名のうち188名です（図1）。特に「7～9歳」の頃にキッザニア初体験の人は、キッザニアに複数回（「2～3回」以上）通ってくれた人が多かったようです（図2）。今回アンケートに協力してくれた中で一番若い人は20歳、一番年齢が高い人は29歳、平均は26歳でした（図3、キッザニア経験がある人もない人も同じ）。卒業してから数年以上が経った今、500名のキッザニア卒業生たちは当時をどのように振り返り、また、今をどのように過ごしているのでしょうか。

なお、今回の調査では、一部を工夫して、キッザニアの経験がない方も回答できる質問を設定してアンケートを実施し、キッザニア経験がない計500名からも回答協力を得ています。一部の質問については計1000名分の回答結果を分析して、キッザニア経験がある場合とない場合で、キャリアに関するさまざまな事柄に違いが出てくるのかをご紹介します。

キッザニアポイント①
- 20代 1000名のWebアンケート調査を実施
- キッザニア来場経験者500名と来場の経験のない方500名が対象

図1　初めてキッザニアに来たときの年齢

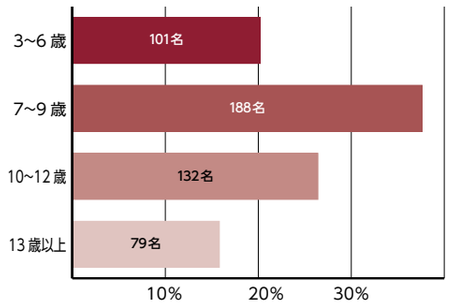
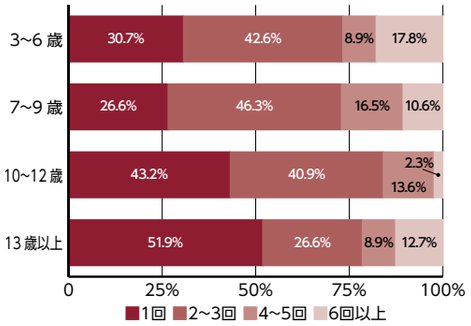


図2　初来場年齢と来場回数

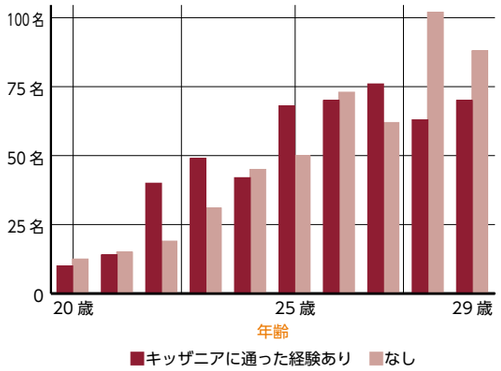


2.キッザニアンたちの姿

2.1 キッザニア経験が持つ意味

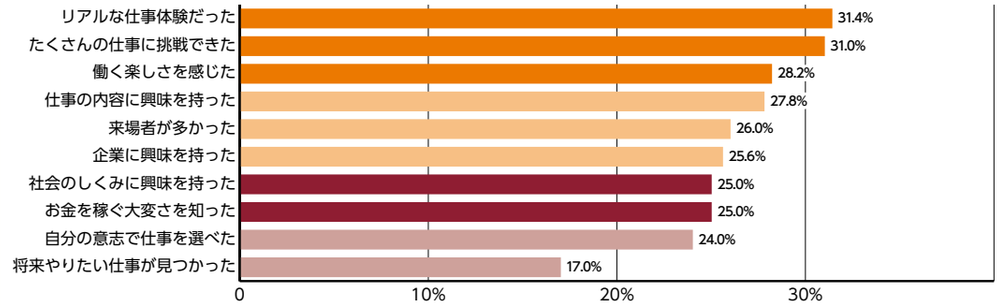
キッザニアンにとって、キッザニア経験とはどのようなできごとであったのでしょうか。当時のキッザニア体験を振り返って、今も印象に残っているのは「リアルな仕事体験だった」（31.4%）、「たくさんの仕事に挑戦できた」（31.0%）、「働く楽しさを感じた」（28.2%）といったことでした（図4）。「こども達は大人のようにいろいろな仕事やサービスを体

図3　アンケート協力者の年齢分布



※各図の合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。

図4　キッザニアの印象



験することができる」場を提供するキッザニアで、まさにそのねらいに沿った経験をしていました。その実感は、数年間、人によっては十数年間を経ても思い出せるほど残っていることもわかりました。

キッザニアポイント②（2.1について）
- キッザニアの印象は「リアル」や「たくさんの仕事に挑戦」
- 企業や社会の仕組みへの興味も醸成

2.2 キッザニア経験がもたらすほかの取り組みへの影響

「リアルな体験」「たくさんの仕事に挑戦」「働く楽しさ」といった印象があるキッザニア経験がもたらす影響は、どうやらキッザニアの施設内だけに留まるものではないようです。ふだん通っている学校での学習にも関わりが見られます。

キッザニア経験がある人は、ない人に比べて、小学校や中学校で取り組んだ「自分のキャリアを考える授業」があったか・なかったかを憶えています（図5、図6）。ここで重要な

図5　**小学生**のときに「自分のキャリアを考える授業」はあったか

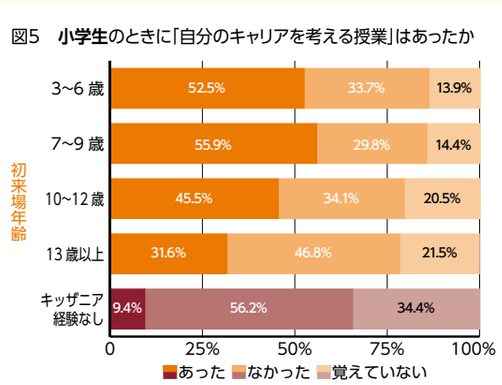


図6　**中学生**のときに「自分のキャリアを考える授業」はあったか

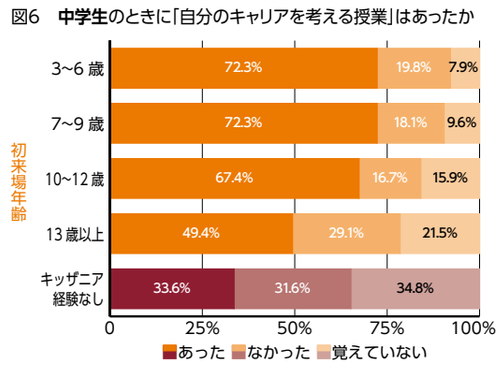


図7　**小学校**の「自分のキャリアを考える授業」は楽しかったか

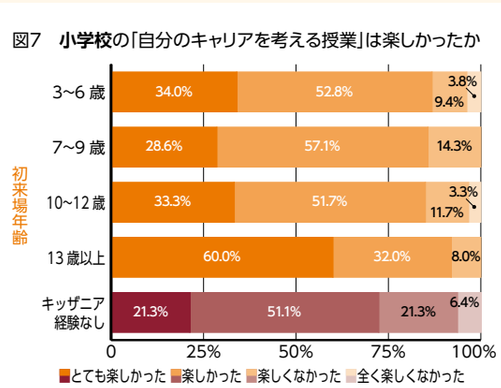
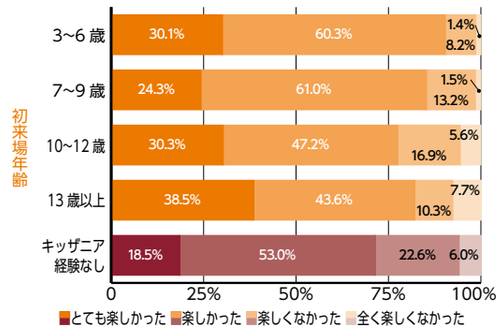


図8　**中学校**の「自分のキャリアを考える授業」は楽しかったか



のは、「覚えていない」という回答の割合が、キッザニア経験がない人に比べて減る、という点です。それも、初めてキッザニアを経験した年齢が若い人ほど、「自分のキャリアについて考える授業」があったか・なかったかを覚えています。キッザニアで職業に関する体験をしたことで、小学校や中学校で提供される「キャリアを考える」機会（＝キャリア教育）をしっかり認識できるようになるのかもしれません。「キャリア」という言葉が使われていなかったとしても、実際には、学校で学ぶことの中にも「自分のキャリアを考える」きっかけになる活動はたくさん存在します。たとえば、小学校での「まちたんけん」や中学校での「職場体験活動」は全国的に行われている取り組みです。大事なことは、ただ「たんけん」したり、「職場体験」したりするのではなく、自分の将来にも関わることが学べる機会だと少し意識することです。もしかしたら、キッザニアでの体験が学校での学習も「自分のキャリアについて考える」機会であると意識させることにつながったのかもしれません。

さらにはキッザニア経験がある人のほうが、「自分のキャリアを考える授業」を楽しんで受けていました（図7、図8）。キッザニアで「リアルな体験」「挑戦」「働く楽しさ」を感じる経験をしたことで、小学校や中学校での「自分のキャリアを考える授業」についても、有意義な学習としてより楽しみながら受けられるようになっている可能性も考えられます[1]。ある調査によれば、中学生が進学を希望するにあたって、困ったり悩んだりしていることの第3位に「学習意欲がわかないこと」があがっています[2]。中学生の頃だからこそ、「自分のキャリアを考える授業」を楽しんで受けられることには特に意義がありそうです。

キッザニアポイント③（2.2について）
- 卒業したキッザニアンたちは小・中学生時代のキャリア教育の有無をより明確に記憶している。
- キャリアに関する授業を楽しんで受けていた傾向あり！

2.3 キッザニアンは社会の仕組みや働くことに興味あり

さて、小学校や中学校での「自分のキャリアを考える授業」を楽しみながら受けたキッザニアンたちは、その頃から社会の仕組みや働くことに興味があったようです（図9、図10）。特に、「3〜6歳」という小さな頃に初めてキッザニアに行った人の半数近くは、「小・中学生時代に社会の仕組みについて興味」が「かなりあった」と答えています。もしかしたら、とても小さい頃から何事にも好奇心旺盛だったから、または、社会や働くことに興味を持っていそうに見えたからキッザニアに連れて行かれた、ということかもしれませんし、キッザニアに行ったから興味が湧いたということかもしれません。どちらが先なのかは残念ながら不明ですが、キッザニアの経験がない人の、社会や働くことに対する興味の低さを踏まえるなら、少なくとも「働くってなんだろう?」「社会ってどうなっているんだろう?」という興味を養う場として、キッザニアは有意義なところではありそうです。

キッザニアポイント④（2.3について）
- 卒業したキッザニアンは小・中学生時代に社会の仕組みに興味あり！

図9　小・中学生時代に社会の仕組みについて興味があったか

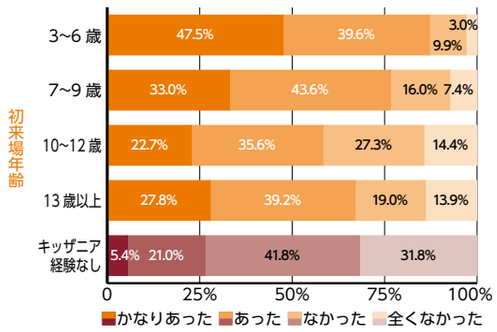
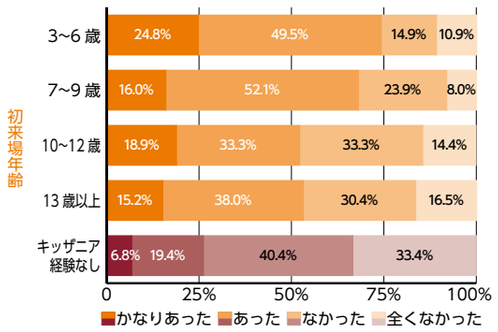


図10　小・中学生時代に働くことに興味があったか



[1] 小学校の図7について、初めてキッザニアに行ったのが13歳以上（中学生の頃）だった人に「とても楽しかった」が多いことについては少し注意が必要です。小学校での「自分のキャリアを考える授業」が楽しかったからキッザニアに来た、という可能性があります。

[2] 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター、2020、『キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書』、p.151。

2.4 キッザニアンの目から見た「小・中学生の頃に職業に関する体験をすること」

ここまで、キッザニアンたちが小学校や中学校に通った頃に「自分のキャリアを考える授業」などを楽しんで受け、社会の仕組みや働くことに興味を持っていた様子を見てきました。そのようなキッザニアンたちがいま当時を振り返って、「小・中学生の頃に職業に関する体験をすること」をどのように捉えているでしょうか。

小・中学生の頃に職業に関する体験をすることは意義がある、というのがキッザニアンたちの実感です（図11、図12）。小・中学生の頃の職業に関する体験は、その職業への興味や将来のキャリア選択に役に立つと思っています。キッザニア経験がない人よりも、こうした問いに対して肯定的に捉えていることは重要なポイントです。小さい頃の「なりたい職業」に就く人は多いわけではないことを思うと、職業に関する体験をすることは重要ではないと考える人もいることでしょう。しかしながら、インタビュー（p.11）にも表れていたとおり、自分のキャリアを切り拓いていくためには、「現実」を「知る」こともまた大事なことです。

20代を迎え、キャリア形成を始めた人たちに協力しても

図11　職業体験はその職業への興味につながると思うか

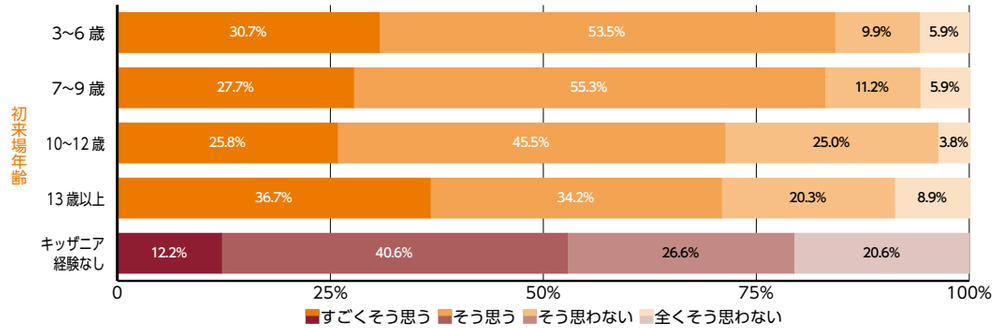


図12　将来のキャリア選択の役に立つと思うか

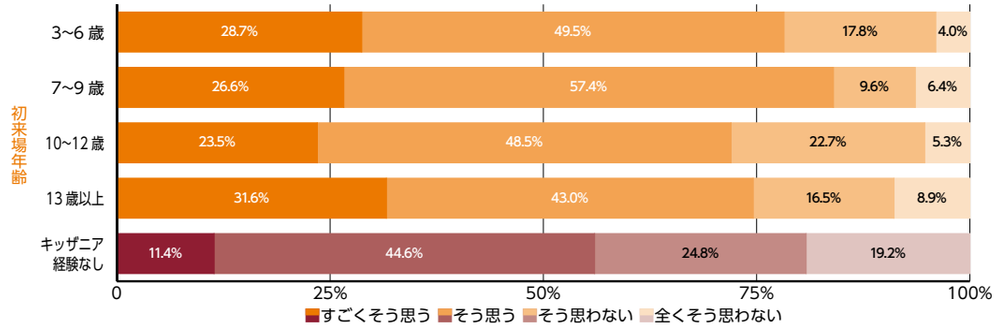
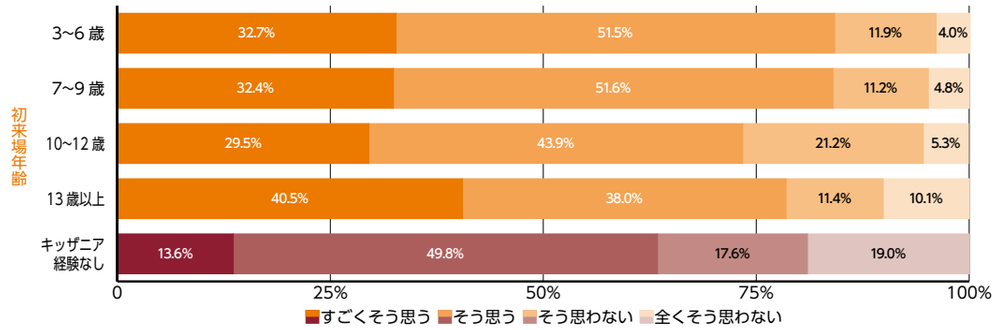


図13　授業や職業体験施設で、自分で選んだ職業を体験することは大切だと思うか



らったアンケートで、キッザニアンたちのほうが小・中学生の頃の職業に関する体験がその職業への興味を養ったり、将来のキャリア選択の役に立つと思ったりすると回答している事実は、経験したからこその実感が表れており、意義深いものです。

さらに、キッザニアンたちは、授業や職業体験施設で、自分で選んだ職業の体験をすることは大切だ、と思っています(図13)。キャリアとは「人が、生涯の中でさまざまな役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と言われています[3]。すなわち、キャリアとは自分で決め、自分で意味付けていくものにほかなりません。自らパビリオンを選び、仕事をすることに取り組んだキッザニアンたちだからこそ、小・中学生の頃からそうした経験を積み重ねていくことの大事さを実感しているのかもしれません。

キッザニアポイント⑤(2.4について)

- 卒業したキッザニアンは小・中学生時代の職業に関する体験は大切だと考えている。
- 自分で選んだ体験であることが重要。

3.時間が経っても根付いているキッザニア経験の影響

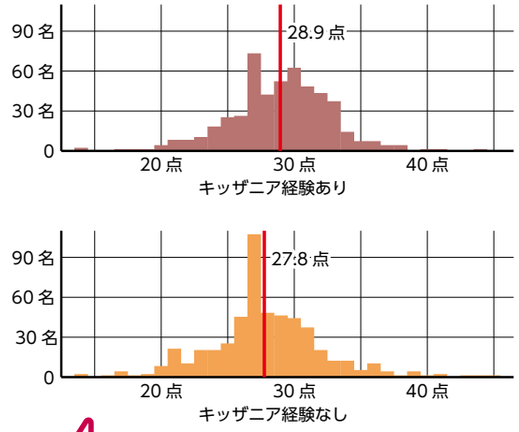
これまで見てきたとおり、過去を振り返ってもらった結果、浮かび上がってきたのは、リアルな職業体験をし、キッザニアのみならず学校での「自分のキャリアを考える」学習も楽しんで受け、社会や働くことに興味を持つというキッザニアンたちの当時の姿でした。今から振り返っても、小・中学生の頃に職業に関する体験をすることの意義をキッザニアンたちは認めています。

その一方で気になるのは、そうしたキッザニアに通ったその当時の経験は、キッザニアを出たあとにも影響するのか?ということです。もちろん、先ほどもあったとおり、キャリアは積み重ねですから、キッザニアを卒業したあとにした経験のほうが現状への影響力は強いことでしょう。しかし、もしキャリアが本当に積み重ねであるのなら、小・中学生の頃の経験も現在のキャリアの土台として影響力を持っているかもしれません。

そこで、アンケートでは、現在の職業キャリアの自律性に関する9つの質問[4]に答えてもらいました。職業キャリア自律性とは、自己のキャリアを自らの意志と責任で決める姿勢などのことを表しています。質問への回答傾向からは、その人の職業キャリアの自律性の現状が見えてきます。今回のアンケートでは「よくあてはまる」から「全くあてはまらない」までの5段階で尋ねたため、「全くあてはまらない」ほうから「よくあてはまる」まで順に1点から5点を割り当て、9つの回答の点数を足しました。

結果を見ると(図14)、キッザニア経験がある人(赤紫色)のほうが、キッザニア経験がない人(橙色)よりも若干得点(平均値)が高い結果でした(経験あり:28.9点、経験なし:27.8点)[5]。その差はおよそ1点なので、9つある質問のうちどれかが、たとえば「あてはまる」から「よくあてはまる」に変わったくらいの違いです。

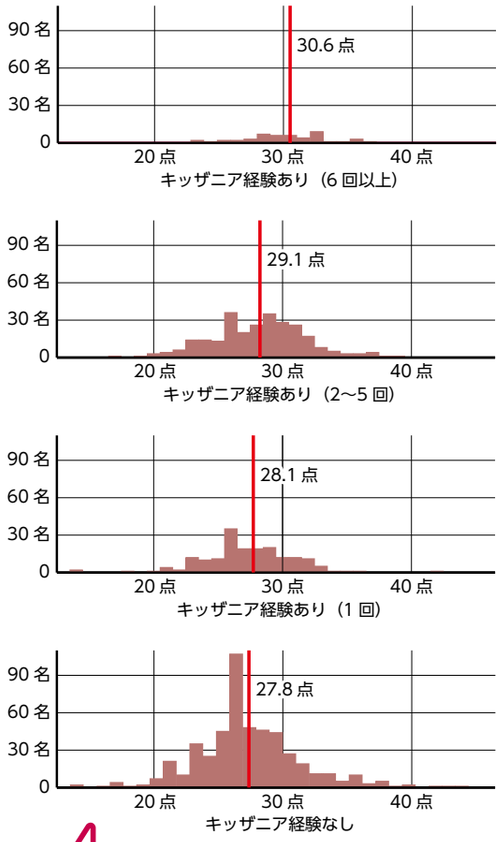
図14　職業キャリア自律性尺度合計得点(キッザニア経験の有無)



キッザニア経験がある人の中にもキャリア自律性が低い人も、経験がない人の中にもキャリア自律性が高い人もいますが、キッザニア卒業後しばらくした時点でのキャリア自律性はキッザニア経験がある人のほうが平均的には高いことが期待できます。

もう少し深掘りしてみましょう。キッザニアに通った回数による違いはあるでしょうか。1回通った人、複数回通った人は変わらないのでしょうか。分析結果によると(図15)、キッザニア経験が複数回あることが重要なようです。職業キャリア自律性の得点(平均値)は、キッザニア経験がない人で27.8、1回の人で28.1、2〜5回の人で29.1、6回以上の人で30.6と、通った回数が多い人ほど高い傾向にありました[6]。

図15　職業キャリア自律性尺度合計得点(キッザニア経験の回数別)



キッザニア卒業後しばらくした時点でのキャリア自律性はキッザニア経験がある人のほうが平均的には高いことを確認しましたが、キッザニア来場回数が多いほうがキャリア自律性はより高いことが期待できます。つまり、自己のキャリアを自らの意思と責任で決める姿勢は、キッザニア来場経験が多い人ほど整っているということです。

ある1日のできごとが、数年後、もしくは十数年後の何かに影響するか?と考えると、キッザニア経験1回の影響力が小さいことはそれほど不自然なことではないでしょう。むしろ、キッザニア経験が複数回になったとき、それがたとえ数多いものでなくても、数年も経ったあとの職業キャリアの自律性に影響が小さいながらも確認でき、さらに6回を超えると影響力がより大きくなるというのは驚くべきことではないでしょうか。キッザニアという「夢を挑戦できる場所」(A氏のインタビュー)で、小さい頃に何度も仕事に挑戦したことが、何年も経って大人になった今も、自律性というかたちで支えてくれているのかもしれません。

キッザニアポイント⑥(3について)

- 卒業したキッザニアンたちのほうが来場経験のない人たちよりも、少しだけキャリア自律性が高い
- 卒業したキッザニアンの中でも複数回来場をした人のほうが、キャリア自律性が高い
- どちらも得点の差はわずかなものだが、年を経てもキッザニア経験の影響が確認されたことは重要

[3] 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(2023.1)
[4] 坂柳恒夫、1999、「成人キャリア成熟尺度(ACMS)の信頼性と妥当性の検討」『愛知教育大学研究報告(教育科学編)』48: pp.115-122。
[5] WelchのT検定を行った結果、統計的に有意な差であることが確かめられています(t = 4.4146, df = 984.58, p-value < 0.0001)。
[6] 多重比較(Bonferroni法)の結果、キッザニア経験が1回の人と2〜5回の人の得点差は統計的に有意な差であると確認できた一方、経験がない人と1回の人との間、2〜5回の人と6回以上の人との間の得点差は統計的に有意であるとは確認できませんでした。1回きりではなく、複数回通うことが鍵のようです。なお、更に統計解析(重回帰分析)も行っています。関心がある方は19ページをご覧ください。

4.アンケート調査のまとめ

調査を通じて浮かび上がってきたのは、キッザニアで「リアルな職業体験」をし、「たくさんの仕事に挑戦」し、「働く楽しさ」を感じながら、学校でも「自分のキャリアを考える」学習を楽しみつつ、社会の仕組みや働くことに興味を持った小・中学生だったキッザニアンたちの姿でした。いま振り返れば、この頃に「職業に関する体験をすること」の意義を、キッザニアを卒業した人たちは実感しています。このようなキッザニア経験を複数回重ねることで、キッザニアを卒業して数年以上経ったあとでも、職業キャリアの自律性が高まっている様子も見いだされました。

○職業キャリア自律性尺度と統計解析の結果

職業キャリア自律性尺度は、以下の9つの質問からなっています（坂柳、1999）

1. 自分の職業生活を主体的に送っている
2. 自分から進んで、どんな職業生活を送っていくのか決めている
3. 周りの雰囲気にあわせて、職業生活を送っていけばよい
4. 職業生活の送り方には、自分で責任をもつ
5. 職業生活が充実しないのは、大半は周囲の環境によると思う
6. 充実した職業生活になるかどうかは、自分の意志と責任によると思う
7. 働いていてもつまらないと思うことがしばしばある
8. 職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく
9. これからの職業生活を通して、さらに自分自身を伸ばし高めていきたい

キッザニア経験の回数と職業キャリア自律性が関連していることを本文では確認しました。ただし、キッザニア経験以外にも職業キャリアの自律性に影響しそうなほかの要因もありそうです。ほかの要因が影響した分を取り除いて、純粋なキッザニア経験の影響力を知ることはできないでしょうか。重回帰分析という手法を用いて、今回のアンケートで利用可能なほかの質問の回答も使ってほかの影響要因も考慮しながら、できるかぎりキッザニア経験に由来する職業キャリア自律性得点の違いを検証しました（表1）。その結果、図15で見られたよりも小さな得点差になりましたが、2〜5回や6回以上の場合は統計学的に有意な差が確認できました。キッザニアの体験が回答者にとって好ましいものであったため複数回通ったという可能性も残りますので慎重に受け止めるべき結果ではありますが、複数回のキッザニア経験は大人になってからの職業キャリアの自律性を高める可能性が高いことが示唆されます。

（文章:筑波大学 立石慎治）

○調査票について

アンケート調査で使用した調査票は、次の二次元コードから確認することができます。

2023年10月29日に日本キャリア教育学会第45回研究大会において「職業体験施設での経験がキャリアに関する自己認識に与える長期的な影響」というテーマで本調査に関する報告を行いました。

（表1） 重回帰分析の結果

変数	Beta	95% CI'	P値
通った回数			
未経験	—	—	
1回	0.29	-0.39, 0.97	0.41
2〜5回	0.80	0.15, 1.44	0.015
6回以上	1.67	0.45, 2.90	0.007
性別			
男性	—	—	
女性	-0.79	-1.30, -0.29	0.002
そのほか	1.46	-1.71, 4.63	0.36
答えたくない	-1.47	-3.68, 0.73	0.19
年齢	-0.07	-0.18, 0.04	0.20
転職経験			
複数回、転職をした	—	—	
一度、転職をした	-0.31	-1.02, 0.39	0.38
転職をしたことはないが検討中	-1.10	-1.89, -0.32	0.006
転職をしたことはないし、検討もしていない	-0.45	-1.20, 0.30	0.24
教育歴			
高校卒	—	—	
専門卒	-0.19	-1.03, 0.64	0.65
短大・高専卒	1.21	0.31, 2.11	0.008
大学卒	0.83	0.20, 1.47	0.010
大学院卒	2.19	0.75, 3.63	0.003
そのほか	-0.27	-2.31, 1.77	0.80
小学校の設置者			
公立	—	—	
国立	-0.29	-1.24, 0.65	0.55
私立	-0.15	-0.95, 0.66	0.72
そのほか	0.04	-1.32, 1.39	0.96
中学校での経験:職場体験学習やインターンシップ	0.99	0.48, 1.51	<0.001
中学校での経験:職業や仕事を調べる授業	0.71	0.14, 1.27	0.014
中学校での経験:職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業	0.01	-0.60, 0.62	0.98
中学校での経験:職業興味や職業適性などの検査	0.38	-0.36, 1.12	0.32
中学校での経験:自分の性格を理解するための検査	0.00	-0.77, 0.77	>0.99
中学校での経験:職業・社会体験施設（キッザニアなど）での体験学習	0.61	-0.24, 1.46	0.16

'CI = 信頼区間
R2 = 0.097; Adjusted R2 = 0.074; Sigma = 3.89; 統計量 = 4.34; P値 = <0.001; df = 24; Log-likelihood = -2,764; AIC = 5,580; BIC = 5,708; Deviance = 14,739; Residual df = 975; No. Obs. = 1,000

キッザニア卒業生が描く未来
〜社会をつくっていくのは私たち〜

過去の職業への興味や現在の仕事について語ってくれた20代のキッザニア卒業生たちは、
自分の未来の姿と10年後の社会をどのようにイメージしているのでしょうか。
ここでは、それぞれに関する語りのまとめをご紹介します。

Q. 10年後の自分はどうしていますか?

多様な働き方へ挑戦

今って働き方って結構いろいろあると思うんですよね。副業とか。今の会社でも一つの軸をつくりたいなとも思っているんですけれど、今の仕事をしながらも何かもう一個収入が持てる態勢っていうのを自分でつくっていく必要があるかなと思っている。（C氏）

学び続けたい

この仕事の中で、また次のキャリアにつながる出会いを作っていきたいです。それが日本国内であったり、海外でも仕事を見つけられるようになりたいとも思っています。手仕事とかそういうことも、学んでいたいなっていうのがあります。（A氏）

与える側にいる

今は教わる立場ですが、10年後にはどちらかっていうと、与える側にいると思うので。こうなりたい、みたいな話になってしまうんですが、そういうサポートや対話ができる人でありたい。（B氏）

Q. 10年後の社会はどうなっていますか?

機械化されても残したい人とのタッチポイント

人の手を使わないようにしようという動きが最近あったりするんですけれど、それでもやっぱり完全にはできないですし。あとは、例えばタッチポイントは残しておいた方がいいなっていう風に思ってて、お会計が終わった後、「いってらっしゃ〜い」みたいな感じで送り出してあげるところとか。（D氏）

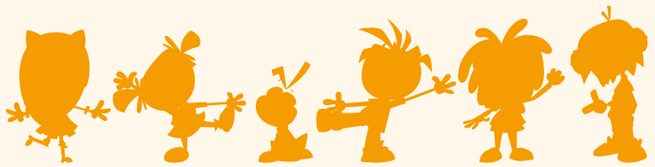
行動することが認められる

一人ひとりが、考えとかやりたいこととかを発信しやすい時代になってるんじゃないかなと思って。（中略）インフラが整備されて、例えばじゃあソフトが、何か動画編集のソフトとかが分かりやすくなってとかで、僕らが何ていうのかな。行動することが割と認められるような雰囲気になってきたなっていうのはあって。（I氏）

ディストピアではなく希望

ディストピアのような予想がある中でも、（環境問題の解決などが）間に合わないんじゃないかっていうことが言われているけれど、私はどちらかというと希望の方を見つけていけたらいいんじゃないかと思うし、なんか少しずつ同年代の面白い人たちが、社会を作っていく側になると思う。（A氏）

Get Ready for a Better World



※コラム①・②は、研究1におけるインタビュー調査の語りを引用しています。

特別対談

国境なき医師団（MSF）
アドミニストレーター
森川 光世

KCJ GROUP 株式会社
代表取締役副社長
宮本 美佐

キャリアの原点、現在そして未来へ

激変の時代に、自分の目指す
英語教師から転身し、国境なき医師団の財務コーディネーターを
KCJ GROUP 株式会社 代表取締役
キャリアを達成する方法とは？
経て、現在は米国公認会計士としても活躍する森川光世さんに、
副社長の宮本がお話を伺いました。

ジグザグのキャリアが つながり、広がった世界

宮本　国境なき医師団のみなさんは、国境や信条や民族を超えて、命を守るという共通の目的に向かい、紛争地や自然災害被災地などで活動されていらっしゃいます。私もその点に非常に共感をしており、今回のインタビューをとても楽しみにしていました。

森川　ありがとうございます。

宮本　キッザニアでは多様な仕事を体験でき、キッザニア東京だけでも100種類くらいの仕事などがあります。森川さんご自身もさまざまなお仕事を経験されていますが、ご自身のキャリアをどのようにお考えでしょうか。

森川　まさに「ジグザグ」ですね。一つのことを続けようとこどもの頃から思ってきたわけではなく、やりたいことをやっている中で少しずつ違う世界が開けてきて、今があるという感じです。

宮本　「ジグザグ」という言葉に、いろいろな職種を渡ってきた森川さんならではの感覚が表現されていますね。

森川　私のキャリアのスタートは、中学校の英語教師です。その際、あらためて英語の教科書を読み、英語は世界の課題を理解するためのツールだということが分かりました。そこで、戦争や飢餓などの問題を挙げ、現実の世界で起こっていることだと生徒たちに分かってもらえるように、いろいろと調べるようになりました。そのプロセスで、世界の課題解決に取り組んでいるNGOや、課題を抱えている国について知り、自分が直接関わりたいと思い、国境なき医師団の事務局に入職したのです。違う世界にどんどん飛び込んだので一貫性がないように見えますが、一つ一つのステップが今につながっています。

こども時代に大切な 自立と経験

宮本　森川さんはどのようなお子さんだったのですか。

森川　人と違うことをやりたいというタイプではなく、親から言われたことをきちんと守るようなこどもでした。ただ今思うと、「きちんと自分で自立できること」が、両親の教育方針としてあったのだと強く感じています。
例えば、髪を伸ばしたときは自分で結びなさいと言われ、必死で練習しました。また、いろいろなイベントを探してきてくれて、「興味があってもなくても、とりあえずやってみたら?」と、行かせてくれたりもしました。

宮本　こども時代に自分で決めて責任をもつという経験をしたことが、今につながっているのですね。『キッザニア白書2023』では、過去にキッザニアに来場した社会人を対象にした調査を紹介しています。その調査では、キッザニアでいろいろな職業を自分で選んで体験した人は、小・中学生時代から「企業」や「働く」ことに興味を持ち、また、将来的に自分のキャリアを自ら決めたいと思う傾向があることが見えてきました。楽しみながら自分で考え、自分で決める職業体験が、将来のキャリアの自律性につながっているように思います。

森川　やはりこどものときにいろいろなものに触れたり、自分で決めたりすることは、大事だと思います。それから、好奇心もとても大切ですね。私がこどもの頃は、身のまわりの人の職業しかイメージできませんでしたが、キッザニアでは自分の知らない職業にも触れ、なんだろうと考えることができますよね。大人になってから、あのとき体験した職業をもう一度やってみようと思うきっかけにもなり、将来につながるのではないかと思います。

宮本　どうもありがとうございます。

森川　工場系の仕事など、表に見えている以外にもさまざまな仕事が存在することに触れられるのもとても印象的でした。いろいろな方のサポートがあって社会が成り立っている、ということがすごく伝わりますね。国境なき医師団も医師以外の仕事がたくさんあり、私自身もそうですが、実際に働いているスタッフの半数は非医療系なのです。

10年後に 後悔しない選択を

宮本　ご自身のキャリアを「ジグザグ」と表現していらっしゃいました。そのときそのときでやりたいことにチャレンジをし、やりたいことのためにスキルを獲得する、というように歩まれてきたのかと思いますが、実際はいかがでしょうか。

森川　すごく簡単にできたように聞こえてしまうのですが、一つ一つの仕事で成果を出すまでには、とても時間がかかりました。例えば、国境なき医師団では、どんなに事務局で長く働いていても、現場で活かせる力を持っていないと現場に出られなかったのです。そこで私も、現場に出るために何か即戦力となる力を持とうと考え、人事アドミニストレーターとして経理や人事に携わるため、米国公認会計士（USCPA）の勉強をしようと決めました。

宮本　そこには、国境なき医師団の現場での仕事に関わりたいという、とても強い意志があったのですね。

KCJ GROUP 株式会社
代表取締役副社長
宮本 美佐（みやもと みさ）

1990年、国際電信電話株式会社(現 KDDI株式会社)に入社。国際海底ケーブルの投資・建設・運用計画の策定に長く従事。以後、位置情報、地域活性化支援等、複数領域での新規事業立ち上げを担う。2020年4月1日より現職。広報、マーケティング全般の他、キッザニア施設以外でのこども達のキッザニア体験、学びの事業化、教育的価値の研究、発表等を管掌している。

森川　日本で仕事もあるし、試験に何回も落ちたので、そこまでしなくていいのでは、と周りの人から言われたこともありました。でも、10年後に自分を振り返ったとき、後悔しない選択をしたいと思ったんです。やりたいものはあるけれど、自分がその基準を満たしていないからと諦めるのではなく、基準を満たすにはどうしたらよいのかを考え、時間をかけてやることにしました。

宮本　そうして諦めることなく目標を達成して、現場へ出られたわけですね。国境なき医師団の仕事の楽しさややりがいは、どのようなところにあるのでしょうか。

森川　国境なき医師団で働いているのは、国籍も価値観もバラバラな人たちです。でも、「人の命を救う」というとてもシンプルな目的があるからこそ、意見の違いが出てきても、最終的には何のためにみんながここにいるのかに立ち返ることができる。そして、チームワークを発揮し、目標達成に向けて前に進んでいくことができるのです。そこが魅力であり、やりがいを感じたところですね。

宮本　仕事をしていく中で培われた力はありますか。

森川　やはり柔軟性です。インフラがない場所では思いどおりにならないことが多いので、冷静に一歩引いてみながら、その場その場で「こうすれば前に進む」ということを学び続けていました。自分のやり方がいつも正しいわけではないので、自分の価値観をいったん取り払うことも大切だと思います。

宮本　森川さんのようにいろいろな領域にまたがるキャリアを積むことは若い人の憧れでもあると思います。自分で決めながら人生を歩みたいと思っている若者に向けてアドバイスはありますか。

森川　キッザニアの“Get Ready for a Better World”という理念のように、国境なき医師団をはじめとした人の役に立つ仕事がしたい、と思う方は多いと思います。でも実は、どの仕事でも人のために役立っているのではないでしょうか。直接的ではなくても社会を支えるという道にはみんなが関わっていて、すべてが世の中のためにつながっています。なので、まずは、自分がやりたいことを目指す。
そして、目指すときに何かが足りないのであれば、そこを満たすために時間をかけて進んでいけばいいのでは、と思います。

好奇心を大切に、失敗しても大丈夫!

宮本　国境なき医師団では、次世代へ向けて「世界といのちの教室」という取り組みを実施されていますね。

森川　小学5・6年生を対象に、人道問題を自分ごととして捉え、いつか自分なりの行動を起こしてほしいという願いを込めて実施している教育プログラムです。

宮本　このプログラムを通して、こども達にどのようなメッセージを伝えたいですか。

森川　人道問題を自分ごととして考えるために、客観的に情報を収集する術を知ってもらえたらと思います。どうしても、自分には関係のない遠い国のできごとだと考えがちですが、実際には、すべてがつながっています。また、こどもには物事をジャッジせず受け止められる広い心と柔軟性があります。だからこそ、いろいろなものに触れて、チャレンジの機会を生かしてほしい。そして与えられたチャンスを大切に、一つ一つのことを積み上げていってほしいと思います。

宮本　森川さんは自分で判断をして、それに対して手段を選択し、実行するという「やり遂げる力」を持っていらっしゃいます。それは、これからの時代に大事な力になりますね。今後やってみたいと考えていることはありますか。

森川　まず、日本で、企業活動と人道援助は別物ではなく、きちんと相互に関わっていくべきだということを体現したかったので、その目標は達成できたように思います。今後については、目の前のことをこなしていく中での出会いや、あらたにやってみたいことの発見を期待しています。

宮本　その心構えは素敵ですね。

森川　一つ一つの出会いはやはり大切にしたいですね。私も知らないことが多いので、まずやってみることで興味を持てるようになり、自分の世界が広がっていくのではないでしょうか。

宮本　自分もどうしようかと躊躇することがありますが、とりあえずやってみるのが早いのかもしれませんね。森川さんがこれからのキッザニアに期待することはありますか。

森川　キッザニアは、さまざまな職業とそれぞれに関わるさまざまなチームで世界が成り立っているということを、自然に体験できる施設だと思います。これからどんどん社会が変わり、職種そのものも変わっていきますので、時代の流れに合わせた体験ができると、こども達の好奇心の範囲も広がるのではないでしょうか。

国境なき医師団(MSF)
アドミニストレーター
森川 光世（もりかわ みつよ）

米国の州立大学大学院修了後、日本で私立中高一貫校の英語教諭として勤務。2005年よりMSF日本事務局に入職し資金調達を担当、2009年よりMSFの海外派遣でスーダン、ナイジェリアなどへアドミニストレーターとして参加。2012年～2013年、MSF日本事務局のフィールド人事部に勤務後、2015年に米国公認会計士(USCPA)資格を取得し、同年MSFでシエラレオネに派遣。現在は大手監査法人にて勤務の傍ら、MSFの活動も継続、2022年秋にウクライナへ派遣。

宮本　キッザニアでは初めて会うこども同士がいっしょに一つの仕事を体験します。外国からのゲストも増えてきますので、国を超えてこども達が同じ体験ができる環境を提供していきたいと思っています。最後にこども達に向けて、応援メッセージをいただけますか。

森川　とにかく、やってみたいことに恐れずチャレンジする精神を持ち、同時に、自分自身の好奇心も大切にしてほしいですね。もしなかなか一歩を踏み出せないというときは、間違えても大丈夫ということを思い出してください。みんな失敗しているんだと思えば、チャレンジしやすいですよね。失敗をする中で小さな成功体験が得られたときに、自信をつけていかれればいいなと思います。

宮本　とても貴重なお話を伺えました。本当にありがとうございました。

「世界といのちの教室」は、小学5・6年生対象の国境なき医師団公式教育プログラムです。世界で起きる命の危機や国境なき医師団の活動について、実際の活動の様子をまじえながらスタッフがお話しします。プログラムでは、活動地の限られた状況の中での患者への対応を子どもたちが自ら考え、議論するワークショップも行います。学校単位オンライン教室と家庭向けオンライン教室を実施しています。学校を訪問して出張授業を行うことも可能です。また、学校向けには先生に授業でお使いいただけるデジタル教材も提供しています。ぜひお申し込みください。

詳細・お申し込みはこちら
https://www.msf.or.jp/study/

KidZania's Experiences

こども達にとって「職場のちょっと先輩」として職業・社会体験をサポートしているスーパーバイザーたちは、
日々どんな想いを持ってこども達と向き合っているのでしょうか?
こども達の体験がどのように育まれているのか、その想いを知るために
最前線で活躍しているスーパーバイザー3名にインタビューを実施しました。

Experience 1

キッザニアネーム　アサコ
所　属　観光バス スーパーバイザー
入社年　2016年

チャレンジする楽しさを知ってほしい!

こどもが大好きで、さらにいろいろ挑戦したかったため、開業間もないキッザニアで働き始めました。その後、結婚と出産のため仕事を中断していましたが、こどもを連れて、再びキッザニアを訪れたときにキッザニア愛が復活(笑)し、また働き始めました。キッザニアのアクティビティの中には、「ちょっと難易度が高いかも」と思われるものもあります。例えば人前に出て話すことは、大人でもプレッシャーでドキドキするかと思います。しかしそのプレッシャーを乗り越えて、やりきったときのこども達の達成感に満ち溢れた表情を見ると、心からよかった!と感じます。私が大事にしているのは挑戦し続けること。最近は外国のお客さまが増えていることもあり、自分自身の成長のために英語の勉強を日々頑張っています。これからも、キッザニアに来たこども達が新しいことに思いっきり挑戦できるよう全力でサポートし、チャレンジすることの楽しさを知ってもらいたいと思います。

Experience 2

キッザニアネーム　リョウマ
所　属　空港(入退場口) フロントマネジャー
入社年　2020年

将来の選択肢を広げるきっかけに

こどもと接する仕事がしたい!と思い、2020年にキッザニアで働き始めました。こども達や保護者の方々から「楽しかった!また来たい!」などのコメントを頂くたびにやりがいを感じています。こども達とのアクティビティの中で大切にしていることは、キッザニアのコンセプトである「エデュテインメント(楽しみながら学ぶ)」やパートナー企業の思いをこども達へ丁寧に伝えることです。それと同時に強い責任も感じています。これまでの仕事で一番感動したのは、緊張で泣きながらアクティビティを始めたこどもが、最後までやり遂げてくれたことです。こどもに寄り添って、ポジティブな言葉をかけ続けていたら、ゴールまで頑張り抜いてくれました。そのときに、保護者の方も感激してくださって…。とても嬉しいできごとでした。キッザニアには、普段はできない体験がたくさんあり、その体験が将来の自己選択のきっかけとなるかもしれません。キッザニアでどんどん視野を広げてほしいです。

Experience 3

キッザニアネーム　デニ
所　属　Global Cafe フロントマネジャー
入社年　2022年

自分の力に自信を持って

私はメキシコ出身なので、メキシコ発のキッザニアで働くことに誇りをもっています。キッザニア福岡で、英語でのコミュニケーションを通じて異文化に触れてもらい、こども達の好奇心を刺激することを大切にしています。もちろん、英語が得意ではないこども達もたくさんいるので、できるだけ笑顔で、わかりやすい表現を使って「英語が楽しい!」と思ってもらえるように頑張っています。こども達の成長を感じるときに自分自身も成長している、と感じます。語学は大好きな分野で、スペイン語、英語、フランス語を話すことができますが、日本語は勉強中で、とても難しい!と思っています(笑)。でも、「できないことをできるようになりたい」と考えて頑張ってきました。他国の言葉でコミュニケーションをとるのは大変ですが、自分の不安を乗り越えていくことがモチベーションになっています。キッザニアへ来てくれるこども達には、自分の力に自信を持って、不安なこともやってみれば必ず成功できる!ということを伝えたいです。

インタビュー　2023年9月

卒業したキッザニア　ンからのメッセージ

インタビュー調査で寄　せられた応援の声です。

今のキッザニアンへ

message 01 画面以外から得られるものを見てね

「画面以外から得られるものを見てね」っていうのは、ちょっとあるかなって思います。気軽にいろんな体験ができるといえばできるけど、やっぱりその得たものの解像度とかは違うのかなって思っている。

message 02 “Be curious”

ちょっと長く生きる先輩として。私が大切にしている言葉の一つに“Be curious”、「好奇心」というのがあって、その、自分の中に芽生えた好奇心をつぶさないで、好きなものは好きって、周りにどんどん伝えていってほしいなと思うし、言霊ではないけれども、自分のことは恥ずかしがらずに声に出していったら、また世界が広がっていくよ、というのを伝えていけたらいいかな、と思います。

message 03 やりたいものをやりたいように

ほんとにいろんなものを体験してほしいですね。もしかしたらどこでヒットするか分からないし、食わず嫌いせずに全部、全部というか、やりたいものをやりたいようにやってみれば一番いいんじゃないかなと思います。こどもの頃、自分はこういうふうな職業に就きたいってあんまり人前で言うのが恥ずかしかったんですけど、キッザニアだとそんなことはないので。自分のこういうことがしたいっていう気持ちを高められる場所という意味で、楽しみつついろんな経験をしてほしいなと思います。

message 04 小さい頃からいろいろな経験を

小さい頃からいろんな仕事を見てみるっていう経験はしてもらいたいなって思います。いろんなものを見れば見るほど、自分が何したいかが見えてくるだろうし、自分が楽しいと思うものがわかると思うんで、キッザニアに行ったらもういろんなものが体験できたりとか、Out of KidZaniaだったら地元のものも体験できるから、より近いものが見れると思うので、そういうものを小さい頃からいっぱい体験してもらいたいなと思います。

message 05 可能性を広げる経験を!

キッザニアをきっかけに可能性をどんどん広げるような人になってほしいな。
何か大人から言われることってどうしても強制力が働いちゃう気がするので。
キッザニアンとして経験したことって、多分この先々絶対自分の人生のハイライトだったりとか、振り返ったときに思い出になると思うので、そういうのを大事にできるように、ぜひキッザニアでいい経験を積んでみてはどうでしょう?

message 06 夢を持って過ごしてね

しっかり自分の夢、やりたいことがすべてではないんですけど、ちっちゃな目標でもいいので、何かそういう夢を持って日々過ごされるっていうのは、すごい将来にもつながるし、すてきな考え方、行動だと思うので、そこはぜひ夢を持って過ごしていってほしいな。

これからのキッザニアへ

message 01

こども達にいろんな職業を体験させてあげるってすごいすてきだし、いいコンセプトだと思うんです。僕は結構将来についてあんまり考えてこなかったので、ぜひ今のこども達に考えるきっかけを提供していっていただきたいなと思っています。

message 02

多分仕事って、変わっていくものだし、今もすごい色んな肩書が存在するので、その可能性を教えてくれる存在、10年後もそういう存在であってほしいなっていうのはすごく思います。

message 03

個人的にキッザニアが好きな理由は、やっぱり、楽しむことと学ぶことを両立させようとしているところです。こどもを楽しませるものって結構世の中にいっぱいあると思うので、学ぶほうをもっと推していってほしいなと、思ってます。結構周りの友達とか、友達のお母さんとか、認識としてはやっぱり遊園地の仲間みたいな感じだと思うんですけど、実は結構勉強にもなるんだよ、というところをもっと知ってほしいなっていう気持ちもあります。

message 04

自分に向いてる仕事があるっていうことに気づいてもらいたいな。転職活動をして、好きと向いてるって実際自分がやってみて何か違った部分があったので、そういったところは知ったほうがいいと思って。そこに気づけたら将来に活かせたりもするのかもしれない。

message 05

キッザニアには、自分がこどものときにこういう経験をしてよかったから、こどもにもやらせてあげようっていう親が、ぐるぐるぐるぐる世代ごとにローテーションしていくっていう流れがあるんじゃないかなと思っています。自分自身も大人になったら、こどもに選択肢を与えてあげる意味でも、1回はキッザニアに連れて行ってあげたいなと思っています。

message 06

こどもが憧れの場として行けるようなキッザニアが10年後とかあったりすると、安心してまた何か当時のことを僕が思い出すのもそうですけど行きたい場所になるのかなと思うので、そういうような場がずっと続いてくれるといいなと思います。

卒業したキッザニアンから次のキッザニアンへ
バトンをつないでいきます

コラム③

「Back to KidZania」
～キッザニア日本上陸15周年、卒業世代が再び職業を体験～

2022年1月、KCJ GROUP 株式会社はキッザニア日本上陸15周年を記念し、キッザニア卒業世代にあたる16歳から30歳までの方を対象にしたイベント「Back to KidZania ～30歳以下限定!～」をキッザニア東京・キッザニア甲子園で開催しました。

本イベントは、15周年のテーマである“「なりたい」のために”（いつの時代もこども達に寄り添ってきたキッザニアの想いを込めたもの）をもとに企画したもので、多くのキッザニア卒業世代の学生や社会人の方が参加し、通常こども達がキッザニアで体験しているのと同様に、約100種類の中から仕事やサービスを体験しました。施設内にはブースが設けられ、参加者から、こども達やキッザニアに向けてたくさんのメッセージが寄せられました。ここにその一部をご紹介します!

キッザニアンの当時、機械に触れることが楽しく、空いている時間があれば、すぐにテレビ局やラジオ局に行っていました。カメラやスイッチャーなどのスタッフの仕事が大好きで、よく体験していました。現在、大学3年生で就職活動を行っています。自分の過去を見つめなおしているのですが、私が将来やりたいことは、キッザニアで決まっていたのかもしれません。テレビ局などの放送業界です。大学では映像制作などのクリエイティブ系について学んでいます。今の私があるのは、キッザニアのおかげです。

キッザニアに行けたとき、知らない仕事や興味があった仕事を体験することが出来、それに加え給料をいただけるという非日常を体験できたので、とても楽しかった思い出しかありません。特に幼い頃からの夢であった看護師（赤ちゃんのお世話）を体験して、看護師になりたいという思いがなお強くなり、今看護師として働いています。キッザニアのお仕事は本格的に出来ていてとても素晴らしい体験を幼い頃にしていたのだと感じ、この経験を今キッザニアに行ける年代のこども達に伝えていきたいと思います。

こどもの頃にキッザニアでさまざまな体験をさせて頂きました。中でも料理体験が楽しく、それまで料理をすることがまったくなかったのですが、体験したあとからは、母に教えてもらいながらさまざまな料理を手伝うようになりました。キッザニアで料理の楽しさを学ばせて頂き本当に楽しかったです! 今年自分にもこどもが生まれ、私と同じようにキッザニアを通して興味があることを学んでほしいと思っています!

妹とパイロットの体験、医師の体験をしました! そして今妹はパイロットの訓練、私は医学部に入り、本当にキッザニアで体験したとおりになりました! あの頃は見えている世界がすべてで作り物だとしても、じぶんたちの持っているすべてで楽しんでいたのを思い出します! 少なからず将来の職業に影響を与えてくれた夢あるキッザニアに戻りたいです! キッゾも余っており帰ってきてからもおままごとで使って遊んだのも懐かしいです。お財布とともに今は4歳のいとこのおもちゃとなっております。本当にありがとう～! もどりたいよーキッザニアー!

「Back to KidZania ～30歳以下限定!～」実施概要

■ 開催日・会場：※計4回
キッザニア東京　2022年1月18日（火）、2月8日（火）17:00～21:00
キッザニア甲子園　2022年1月13日（木）、2月3日（木）17:00～21:00

■ 参加条件：1990年10月6日～2005年10月5日生まれの方
キッザニアが日本上陸15周年を迎えた2021年10月5日（火）時点で16歳以上30歳以下だった方

おわりに

職業・社会体験がこども達にもたらす変化を、調査研究の形にしてお届けする白書も、今回で5冊目となりました。その間に、世界はよりグローバル化が進み、こども達を取り巻く環境も大きな変化が起こっております。

この激変の時代を生き抜くために必要とされるのは、自分なりのコアを持ち、自己のキャリアについてオーナーシップを持つことだと考えられます。そのため、今回の白書では「キャリアの自律性」について調査報告を行いました。調査の対象はキッザニア卒業生たちです。この卒業生たちがロールモデルとなり、今のキッザニアンやさらには未来のキッザニアンたちに、好奇心を持って世界に向き合うようなインスピレーションをもたらしてくれることを願っています。

「エデュテインメント」をコンセプトとしている施設として、こども達のインターンシップともいえる凝縮された体験を提供してまいりました。その体験を次世代の育成に資するような研究の形で白書として公表することはミッションの一つであり、キッザニアを支えてくださるゲストのみなさま、教育関係のみなさま、そしてパートナー企業のみなさまのご支援へ報いる方法であると考えております。

最後になりましたが、今回の調査研究にあたってご協力をいただきました筑波大学 教学マネジメント室の立石慎治先生に心より感謝申し上げます。

KCJ GROUP 株式会社
名誉会長　住谷 栄之資

Get Ready for a Better World

発行元／KCJ GROUP 株式会社　東京都中央区佃1-11-8 ピアウエストスクエア3F
［本件に関する問い合わせ先］KCJ GROUP㈱ マーケティング本部　E-mail: research@kidzania.jp
2023年12月発行

©&® KidZania 2023／© KCJ GROUP